

日本語国際放送

歯学部 浜田 泰三

世に SWL (Short Wave Listener / Listening) なる趣味がある。以前は、SWL たるには、ちょっとした技術も要ったから、趣味とも呼べたが、今や受信機の性能は向上し、ラジオ以外にも衛星放送の普及で、異国のことを思いやるまもなく、リアルタイムで世界中の映像がとび込んでくる。“活字ばなれ”が進み、テレビやビデオが幅をきかせ、カセットライブラリー、ビデオライブラリーが隆盛をほこっている。類似の、(というのは、共に imagination の部分が重要な部分を占めるという意味で) “ラジオばなれ”は、とうの昔に完全に、熱心な FM ファンと SWL を残して浸透してしまったようである。

BBC は NHK テレビとのタイアップで、高品質のプログラムを多く提供している。というか、日本でこれはよかったと思ったプログラムの多くが BBC 製作であったことが、よくある。

BBC はテレビはもちろんラジオでも日本人には親しまれていると思う。BBC ラジオは朝15分、夜45分、1日計1時間の日本語放送をしている。VOA は約40か国語で放送しているが日本語放送はない(かつてはあった頃もあるらしいが)。さらに BBC や VOA は普通の英語放送の他、英語を母国語としない人々のために Special English (基本英語だけで、しかもゆっくりアナウンスする番組、類似のものに Slow Speed English News—Radio Pakistan などがある) を放送している。

香港中継になってからの BBC は 7180kHz、15280kHz など、アンテナなしで RCC とあまり変わらず、短波らしくなく、良く聴こえる。

さてこの長年親しまれてきた BBC 日本語放送は、近く放送廃止となる。ABC (オーストラリア)、Deutsche Welle (ドイツ) などは今も日本語放送がある(注:ここではソ連、中国、台湾、北朝鮮などの日本語放送は別にしている)。

一方、Radio Japan は、現在21か国語で世界に向け放送中である。英語と日本語放送は、それぞれ1日13時間と12時間くらい放送しており、広島でも聴くことができる。

Radio Japan は、残念ながらそのすべてを聴いたことはないが、一部聴いたりプログラムからみて、BBC などが常に英語学習者のためのプログラムを多く用意しているのにくらべ、在外邦人へのニュース提供中心すぎる気がする。

私は個人的には、国際語として 에스ぺ란ト語は伸びていないし、Queen's English とまではいかなくても、pidgin English よりは判りやすい、各地の少々なまりは認めたあたりの言語が、定着しつつあると思っていた。日本語は、その難しさなどから、普及には無理があると思っていたが、経済優先の社会ゆえの需要からか、海外での日本語学習熱も高いと聞いている。広大には日本語教員学科があり、外国人に日本語を教えるための教員を

養成しはじめていると理解している。

このような背景の中でのBBCの日本語放送の廃止は残念である。BBCのニュースそのものは、何倍もある英語放送でカバーできても、世界の国々では、日本語学習のためにもBBC日本語放送は役立っていたと思うが。

1990年12月16日、日曜の夜にBBCのニューマン氏から、直接我が家に電話があった。雑談の中、近く日本語放送が廃止になることに話題がふれたとき、私は、残念だが、

ぜひ Special English の方を一層、充実させてほしいことを伝えた。

SWLは、かつて趣味として、今や治安の不安な海外へ行くときの命綱として、また東欧社会の変化に電波の果たした役割を万人が知るように国境の取り除き屋として役立っている。しかし、もっと気軽なSWLが趣味でも何でもなく普及して、共通的な言語以外にも世界のより多くの言語が放送されるといい。

